

第 1689 回例会報告

令和3年5月6日(木)晴

会長挨拶

『かえるの鳴き声』

会長 田中久登

爛漫、まさに今はこれかと思いましたがこれは季語では4月だそうです。5月は「澄み渡る5月晴れの爽やかな日々」とでも表現できましようか。最近めっきり5月になっても「こいのぼり」を目にする5月晴れの風景が減ったように思います。1月ほど前に、隣の住宅から聞こえるカエルの鳴き声で精神的な苦痛を受けたとして、カエルの駆除と慰謝料を求めた裁判の



判決が東京地裁でありました。この裁判は、東京・板橋区に住む男性が、隣の住宅で繁殖したカエルの鳴き声で精神的な苦痛を受

けたとして、隣の住民を相手取り、カエルの駆除と慰謝料75万円の支払いを求めたものです。カエルの鳴き声は“騒音”なのでしょう。私たち人間は社会生活を前提として生きています。隣から聞こえるカエルの鳴き声を騒音として損害賠償を訴える裁判があるなど考えてもみなかったことです。結果は、鳴き声は自然音で受任限度を超えるものではない。と却下されたそうです。騒音問題に限っていいますと、鶏を飼った経験のある方はわかるでしょうが、朝からの鳴き声、それは甲高い大きな鳴き声です。鶏の鳴き声で日々の朝が始まる成果を経験された方も多いのではないのでしょうか。東京では、幼稚園・保育園の立地を騒音として設置反対運動も起きています。子供たちが騒ぐ声は、生活を左右するほどの障害だと言う主張です。その方々が今高齢者です、その高齢者は誰が面倒みるのでしょうか。お金ですべて解決

しているとの解釈でしょうか、社会の中で自分自身が生かされていることを理解できていないということでしょう。人は見た目だけの周囲に生かされているわけではありません。日々のごみの処理、電気、水道の維持管理、道路の管理、テレビ新聞をはじめとする報道、衛生管理、消防、病院、ありとあらゆる社会のシステムがあっけいかされているのです、現在のコロナ感染者に対する手厚い看護もそれにあたります。これを理解していない大人がいかにか、これら社会のインフラシステムを動かす人々は目の前の幼稚園・保育園の子供たちが担ってくれるのです。大人も啓蒙活動が必要です

互いに助け合い、協力しあって社会生活が成り立ちます。諏訪湖ロータリーの次年度の役員が決まりました、今年はコロナ禍のなか混乱と試行錯誤の年度となりましたが、来年度の若い布陣に期待したいと思います。

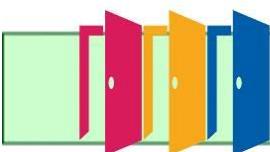


本日の例会は全て ZOOM で行われました

◇幹事報告◇

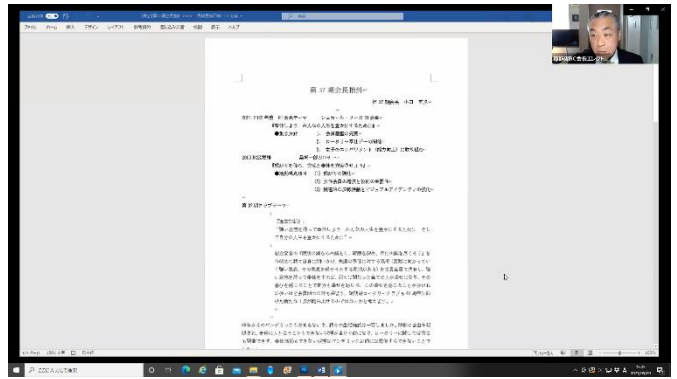
【報告事項】

- 1) チャリティゴルフは中止となり、皆様からご支援いただいた医療従事者支援金を会長と二人で下諏訪町に寄付させていただきました。次ページの報道をご覧ください
- 2) 地区大会の日程が変更となりました。地区大会は2022年5月21



日(土)5月22日(日) に開催されます。
 3)2021年5月のロータリーレートは、1ドル=109円と連絡がありました
【受領文書】
 財団ニュースが届きました。

医療従事者へ寄付を行いました



会長方針



進行の宮坂次期幹事

Happy birthday 

宮澤孝良会員・小口直久会員の誕生日祝をいたしました

第1689回例会
次年度会長方針発表

会長・幹事

本日は、次年度会長予定者 小口直久エレクトによる次年度会長基本方針を發表していただきました。また發表の後には、本日参加していただいた次期委員長にも抱負を語っていただきました
 大変皆が慣れていない ZOOM による例会でしたが、進行をつかさどった宮坂英貴次期幹事の滑らかな進行により大変スムーズにできました



平福寺
花便り



牡丹の季節